2010.11.20　小笠原研究者円卓会議

島嶼共生系学際研究環 が めざすもの

可知 直毅
（首都大学東京　小笠原研究委員長）

島嶼共生系学際研究環とは…

人文・社会系
理学系
工学系
健康福祉系

多様な分野の
島嶼研究の学際的
ネットワーク

それぞれに
特徴的な自然
独特な歴史・
文化

http://imagic.qee.jp/sima2/tokyo/tokyo.html
「日本の島へ行こう」より

首都大学東京では、これらの島をフィールドとして多様な分野の研究を展開

“島”とは

◆周りを海に囲まれ、隔離されている

→大陸と異なる独自の生態系･文化がある

◆面積が限られる

→生態系が 環境変化に弱い

→社会構造に 偏りがある

そのため･･･

- ✓ 独特な進化をとげた生物が生息（生物進化の実験場）
- ✓ 環境変化に対して生態系が敏感に反応
- ✓ 異文化の接触とその後の変遷がみられる

島嶼共生系研究環のミッション

- 異分野研究者間のネットワーク構築
- 学外や海外との共同研究の提案

⇩

「島嶼共生系」とその持続可能性に関する新学術領域を確立すること

空間的に限られた生態系の中で、人と自然が持続的に共生するための**文化的**、**社会経済的**、**自然的条件**

⇧

“島”をモデルとして実証的に研究

これまでの活動

◆ワークショップ開催

第1回ワークショップ（2009.10.10 大島）
第2回ワークショップ（2010. 3.14 首都大学東京）

◆ホームページ立ち上げ

http://www.comp.tmu.ac.jp/island/
シンポジウムや活動報告などを更新中

ワークショップ参加メンバー

日本各地から

湯本貴和（総合地球研、人と自然の共生学）
吉川泰弘（東大・農業生命、人獣共通感染症学）
手塚賢至（屋久島生物多様性保全協議会、保全の協働実践）
長嶋俊介（鹿児島大・多島圏センター、島嶼学・民俗学）
伊藤秀三（長崎大・名誉教授、島嶼生態学）
山上博信（島嶼学会、島嶼学・法学）
加藤　明（(株)計画技術研究所、地域計画）
鈴木　創（小笠原自然文化研究所）
春日　匠（大阪大・コミュニケーションデザインセンター、サイエンスコミュニケーション）

ワークショップ参加メンバー

首都大学東京から

ダニエルロング（人文科学研究科、言語学）
菅又昌実（人間健康科学研究科、公衆衛生学）
村上哲明（牧野標本館、植物系統学）
可知直毅（理工学研究科、島嶼生態学）
黒川　信（理工学研究科、神経生物学・海洋生物学）
沼田真也（都市環境科学研究科、生態学・エコツーリズム学）
福士政広（人間健康科学研究科、放射線科学）
高桑史子（人文科学研究科、社会人類学）
川原　晋（都市環境科学研究科、地域デザイン）
酒井享平（社会科学研究科、独占禁止法）

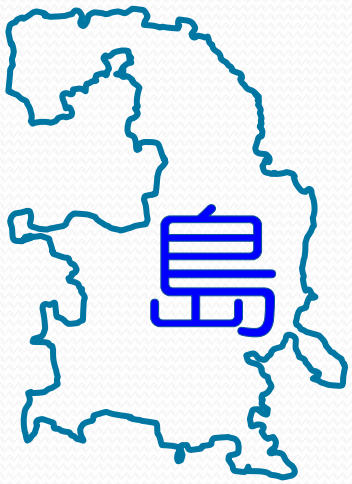
第1回ワークショップ

第一部　問題提起（湯本貴和氏）

島の特徴：Insular syndrome

- 独自の自然と文化をもつ
- 環境変動に脆弱である
- 過疎による文化継承の問題
- 外来種の移入＝固有の生物相への脅威
- 開発の遅れにより自然や文化が保全されてきた
- 観光等での過剰利用、環境問題

「環境の世紀」における「島」の意味



・・・ 限られた資源をうまく利用する知恵と社会構造

環境負荷を低く保ちながら
豊かな生活をめざす必要がある

今必要とされる「島」の研究：キーワードは「持続可能性」

１．固有の価値の発見と発展的継承

２．自然資本の再生・強化

３．「環境負荷が低くても豊かな生活（Quality Of Life）」というメッセージの発信

（省資源・省エネルギーの智恵の発掘）

新学際研究領域の確立に向けて

個々の「島」をどう位置づけるか？

＊**自然要因**

面積、本土からの距離、気候帯など

＊**社会要因**

人口、経済力など

相対座標

＊**地政学的要因**（特殊な島）

国境、200海里など

絶対座標

第2回ワークショップ

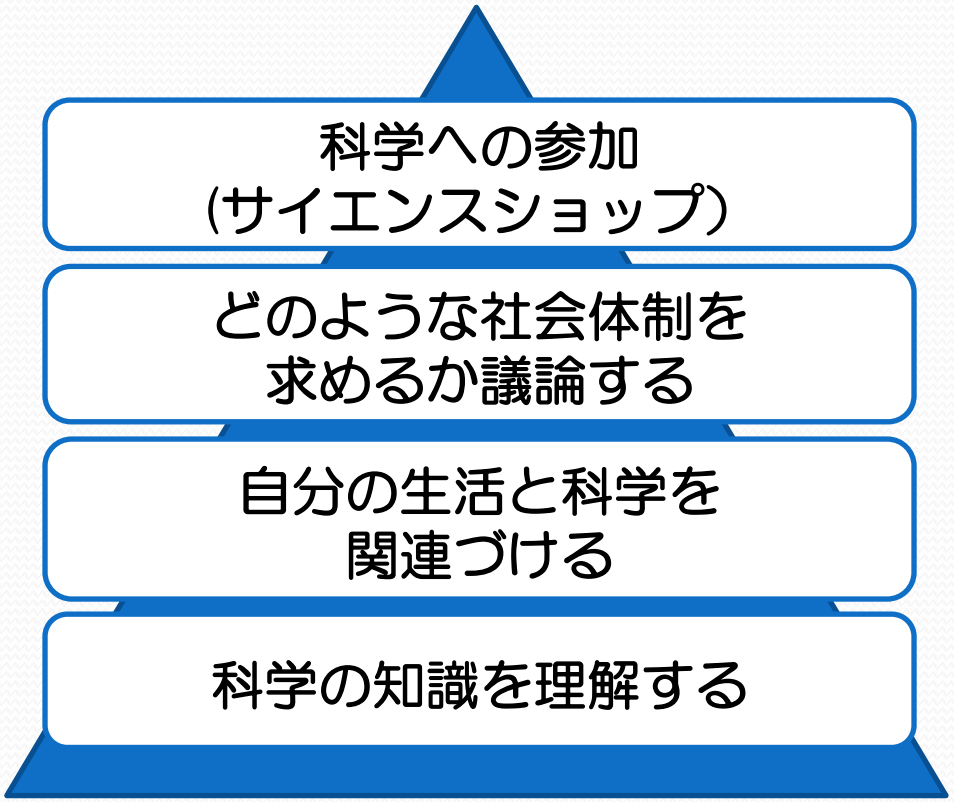
第一部　問題提起（ 春日 匠氏）

小笠原にサイエンスショップを！？

NPOや市民からの要望をベースに、
科学者が研究や開発を行うための
マッチング組織（**非営利組織**）

※使いこなしリテラシーも必要

サイエンスショップへの道



図：科学教育の階層構造
(春日匠　原図を改変)

ボトムアップ型の研究

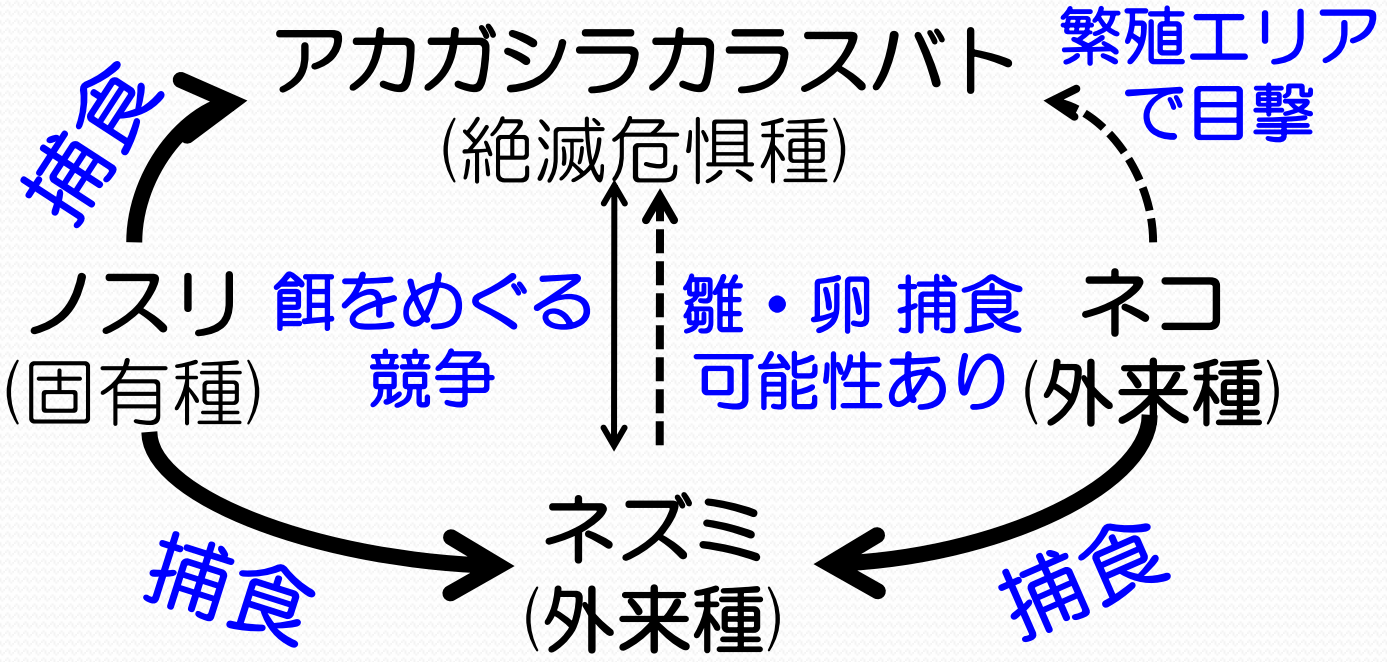
研究環がめざすもの

きれいごとでは済まない人と自然の共生

（鈴木　創）

父島

目的：アカガシラカラスバトの保護
手法：外来種の駆除　ほか



外来種

⇩

生態系に複雑に入り込んでいる

人・ペット・自然の共存をめぐる問題

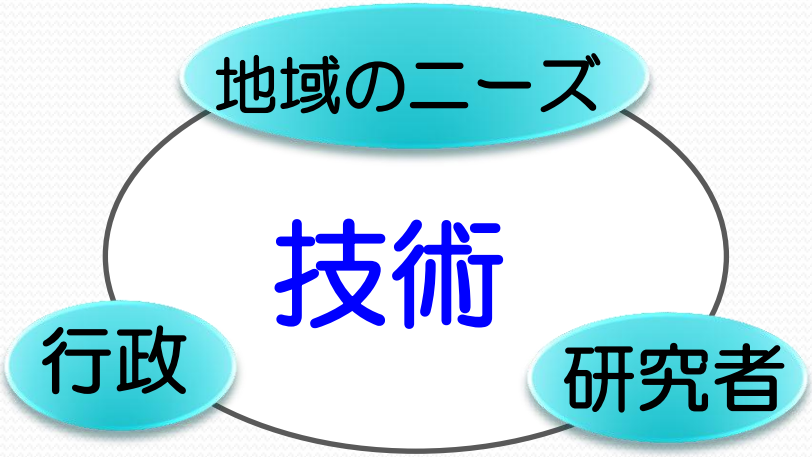
外来種としてのネコ問題

⇩

今後もネコが居続けることを前提に！
『共存』のための具体策とは？

外来種 駆除≒殺し

- ✓ 住民感情への配慮が必要
- ✓ 駆除する「理由」ではなく「理想：ビジョン」が大事



- ホーム
- 概要・目的
- 組織
- 活動実績
- 今後の会議案内
- 論文・報告書
- リンク

首都大学東京
TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

小笠原研究委員会

学外体験型教育プロジェクト

What's new

2010.09.14
地域環境学ネットワーク設立記念シンポジウムにてポスター発表します。

2010.9.7
日本島嶼学会年報 第12号に本研究環の活動報告が掲載されました。

2010.05.24
ホームページを更新しました。

2010.01.22
ホームページをオープンしました。

島嶼共生系学際研究環HP

http://www.comp.tmu.ac.jp/island/

お知らせ

◆2011年2月19日（土）
国際ワークショップの開催を計画中！
開催日時や内容は、ホームページ
（http://www.comp.tmu.ac.jp/island/）
で随時ご案内します。